



1 旧都農高等学校



五年前に閉校した都農高等学校の跡地で、67年続き卒業生は一万人以上いたという歴史ある高校であった。閉校の理由は人口の減少と若者の町外流出により起こった少子化による生徒数減少である。そんな都農高校跡地は現在都農町と街づくり会社であるイツノマ公式サイトと一緒に活用計画を進めているそうだ。「地域共生社会」をコンセプトに世代関係なく集まれる拠点として、子育て支援施設や図書館やシェアアールーム、プレイパーク、クリエイティブスタジオなどを作る計画を進めている。これらは未完成であり今後の活用に注目していきたい。(酒井)

2 セサミ・ツノ



セサミ・ツノは、2006年12月に設立され、社会福祉法人明和会（あきわかい）の有する障がい福祉サービス事業所として障がいや特性を持つ方々を対象に、就労機会の提供や日常生活における訓練を行っており、パンの製造・販売などを通して障がいのある方たちの生きがいを支え、地域に根付くパン屋として地元から愛されている。（松葉）

[百年の誠実。都農町「セサミ・ツノ」【社会福祉法人明和会】](#)

3 看板



道中時たま目にした「捨てるな！」の看板。農園なども多く、豊かな自然の保護を必要とする都農町には必須のものと言えるだろう。漢字の読めないような子供でも視覚的に情報が伝わるようにわかりやすいイラストが付属している。（川口）

4 都農コイン

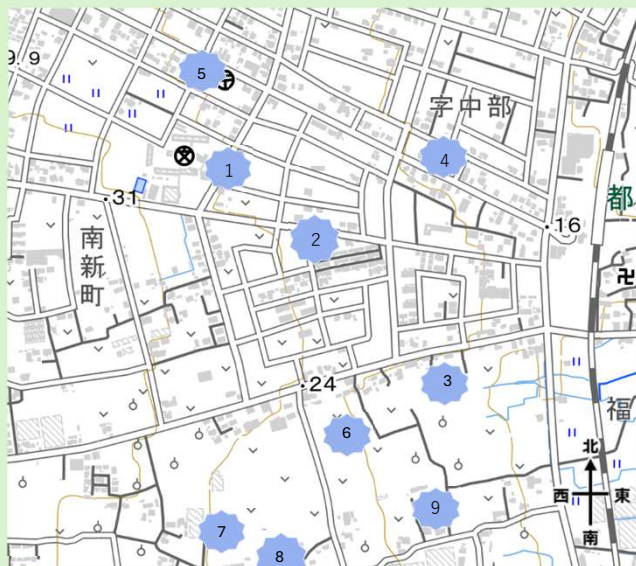


探索中、色々な場所で見つけた。都農コインとは、都農町が令和5年10月に発行した、電子地域通貨である。スマートフォンで利用できるためキャッシュレス決済が可能となる。単位は「コイン」であり、「1コイン=1円」（黒木）

5 とくし丸



～とくし丸 移動スーパー～
買い物難民をターゲットに移動スーパーとして活躍し、コンビニやスーパーの役割を果たしている。この移動スーパーは全国で活躍しており、宮城県ではパントリーえいすけが県内初の提携スーパーとして名乗りを上げ、商品の提供をおこない、農村部に住む高齢者などの私生活を支えている。また、家の近くに日用品を買いに行く場所がない人や免許返納に伴い買い物に行けない人々の生活をも支える重要な存在となっているのだ。（坂下）



6 矢野ふとん店



布団の打ち直しや貸し出し、クリーニングを行っている店。利用者は、年配の方や子供の帰省に合わせ急遽必要になった方などが多く、川南や高鍋などからの利用者が大半を占めているそうだ。しかし、布団屋だけで生計を立てるのは大変らしく、店主は同時に駄菓子屋を営んでいる。周辺に住んでいる小学生に人気らしく、放課後は友達と一緒に来て遊んでいる様子を見ることができた。店主も子供たちの成長を見守ることができると嬉しそうに話していた。（川口）

7 太陽農園



なし、ブドウを主に育てて出荷している農園。経営している方にインタビューさせていただいたところ、都農の魅力は自然豊かであるため町民が自給自足できるとおっしゃっていた。資源不足や物価高が課題となっている現在、自給自足ができることは非常に魅力的である。（黒木）

8 公民館



公民館では地域の人が集まって講座や学習会、ラジオ体操や健康教室などが開かれており、子供から高齢者まで幅広い世代が利用している。住民が趣味や知識を充実させた、新しいことを学ぶ場として活用されているだけでなく、地域の人々とのつながりを深める役割も果たしている。（酒井）

9 畑



ぶどう農園が多く広がっており、都農ワインに使われる「キャンベル・アーリー」や「マスカット・ベリーA」などが栽培されていた。8月上旬から9月上旬に収穫され、都農ワイン市場に出荷されている。農家の人によると、気候的に栽培が難しい中で、土づくりから工夫するなどをして、甘さやフルーティーさを兼ね備えたぶどうを作り上げているとのこと、多くの苦勞を重ねて作られていることを知った。（坂下）



実習を終えて

今回の都農町実習を通して、都農の魅力や特産品についてたくさんの知見を増やすことができました。一方で、都農町が抱える問題点を、町民の意見も交えながら知ることができ、実際の意見を聞くことで、よりリアルな都農町に触れながら学べました。

また、多くの方々にインタビューをすることができました。特に印象に残ったことは、町民間での交流が盛んであり、ある一定の年齢層だけでなく、さまざまな人とかかわることで、大きなコミュニティが築かれていることを知りました。

今後のフィールドワークは、今回学んだ様々なことを生かして取り組んでいきたいです。

